



Vol.12
2016.January

榊原病院 Monthly

独立行政法人 国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital
発行者 榊原病院企画課

院長

村上 優(むらかみ まさる)

1949年生まれ

74年九州大学医学部卒

86年国立肥前療養所精神科医長、2002年同療養所臨床研究部長、

同年King's College London Institute of Psychiatry(司法精神医学研究所)長期研修。

2005年花巻病院臨床研究部長(併任)、2006年琉球病院院長を経て、2014年榊原病院長に就任。

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事。

NGOペシャワール会の会長として活躍。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数

126床

- ・ 精神科病棟 108床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット
- ・ アルコール・薬物依存症ユニット

病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

新年明けましておめでとうございます

院長 村上 優

平成28年が始まります。今年もよろしくお願ひいたします。

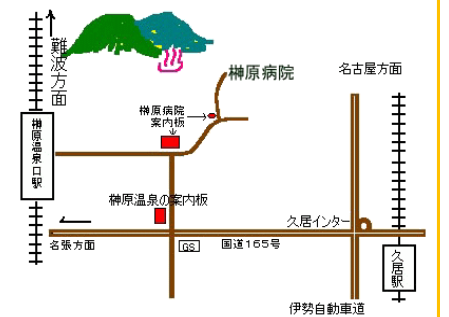
榊原病院の里山の正月は、裏山から夏みかんの実を狙って猿が訪れるところから始まりました。実を熟するのを観察するかのように見回りに来ます。これを獣害とみるか自然豊かとみるか立場によって変わりますが、猪や鹿、兎に狸と日本昔話に出てくる動物たちが裏山から出てくると子どもたちは目を輝かせます。動物園でみる動物やペットとは異なり、人間に距離を置いて凜とした姿は美しく感じます。

榊原病院は昨年末に副院長の村田昌彦先生を迎えて、医師は5名となり医療体制は充実してきました。今年の4月にはさらに医師が赴任する予定で、これを機会に休棟していた病棟をリオープンします。

病院の改修工事も計画されており、新しい榊原病院の始まりの年になります。

精神科医療も地域に向け在宅医療への動きを加速すると、病院の役割は在宅医療を支援する一方で、より手厚い診療を要する精神科専門医療や重症者への治療やケアへと移っていきます。アルコールや薬物依存、さらにはギャンブル依存などの嗜癖行動の専門治療が始まっています。薬物療法には反応しなかった治療抵抗性統合失調症へのクロザピン治療も順調に進んでいます。子どもや認知症のお年寄りの相談など地域に密着した医療も増えてきました。

新生の榊原病院を盛り立てるように4月からは臨床心理士5名、作業療法士5名、精神保健福祉士4名となり、看護師も大幅に増える予定となっています。地元の三重に根づき末永く病院をご利用いただくようお願いしております。



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

トピックス

行事・出来ごと

- 平成27年12月、各病棟でクリスマス会を行いました。



教育・研修

- 寺子屋・榊原塾「今日の精神医学と医療」の開催のお知らせ
・1月13日(水)17:30~19:00 テーマ:精神病理・精神療法
特別講師 酒井 崇 名古屋大学特任講師



榊原病院ホームページ
QRコード

地域医療連携室だより

〈図書ルームからのお知らせ〉

患者様・ご家族様に、図書を通じて病気や医療・福祉の情報を広く知っていただき、回復への志向・治療に取りむむ意欲を高め、治療に参加し、治療者とのより良いコミュニケーションにつながればと考えています。

入院患者様は自由散歩の時間を利用して、ふらっと寄ってパラパラと見て帰る方、しっかりと読み込んで帰る方など様々です。 開設時間：第2木曜日10時～11時



空床状況 **精神科病棟**
12月28日現在 **2床**

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできず使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成27年12月までに全症例は21例となりました。1月も順次投与を開始する予定です。

また、今後クロザピン専門外来の開設についても準備を進めていく予定としています。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状(BPSD)に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」(健康日本21)と言われております。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。4月から当院のアルコール・薬物依存症治療のプログラムをリニューアルしました。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

〈4月よりデイケアを拡大しました〉

平成27年4月1日(水)から、デイケアの実施時間が午後半日のショートケアから、1日(9:30～15:30)のデイケアに変わりました。曜日についても、月・水の週2日から月・水・金の週3日に変わりました。

朝から参加するのは大変だという声もありますが、朝から起きて活動する場所として活用して頂きたいと思っております。昼食づくり等の新しいプログラムも行います。参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。

主な内容： 統合失調症疾患教育、スポーツ、昼食づくり、カラオケ など



榊原は自然がいっぱい！
お話ししながら歩きませんか？

大人気のクッキング教室で、
カレーライスを作りました。



近況だより

リーフレットを作りました

クロザピン治療とアルコール依存症のリーフレットを作りました。

外来診察待合に置いてありますので、ご自由にお持ち下さい。

郵送を希望される方は地域医療連携室にお問い合わせください。



(クロザピン治療)

(アルコール依存症)